読売新聞・防災減災・平成 22 年 7 月 9 日分

開府 400 年

名古屋大学　福和伸夫

今年 2010 年は、織田信長が今川義元を破った桶狭間の戦いから 450 年、徳川家康が清須から名古屋に城を移した清須越しから 400 年を迎えます。この間の 50 年は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑によって戦国時代から安土桃山時代、江戸時代へと歴史が移る激動の時代でした。実はこの期間は、大地も激動の時代でした。

1582 年に本能寺の変で信長が亡くなり、1585 年に関白・秀吉が天下を収めた直後から、大地が騒がしくなります。翌 1586 年 1 月 18 日には、天正地震が発生しました。この地震はマグニチュード 8 クラスの大地震で、飛騨地方の庄川断層帯や阿寺断層帯が活動したようです。同時に、濃尾平野西部に位置する養老断層帯でも地震が発生したようです。兵庫県南部地震よりはるかに大きな地震が、2 か所で発生したため、広範囲にわたって甚大な被害となり、戦国武将も大きな痛手を受けました。富山県高岡市にあった木船城は崩壊陥没して前田利家の弟である前田秀継夫妻が死亡しました。また、岐阜県白川村の帰雲城は帰雲山の崩落により城下もろとも埋没し、城主内ヶ嶋氏理の一族が滅亡しました。その他、岐阜県・大垣城、愛知県・岡崎城、三重県・長島城、滋賀県・長浜城などが全壊し、戦国武将の居城が広範囲に被害を受けました。長浜城では、有名な山内一豊の息女が死亡しました。当の秀吉は、滋賀県大津市・坂本城に居たようですが、強い揺れに驚いて大阪城に急いで逃げ帰ったようです。

その後、1592 年文禄の役を挟んで 10 年後の 1596 年には、九州から近畿にかけて連続地震が起こりました。9 月 5 日には慶長伏見地震が発生し、秀吉が作った絢爛豪華な伏見城の天守閣が大破しました。このとき、朝鮮出兵で蟄居中の加藤清正が秀吉の身を案じて駆けつけ、罪を許されたという「地震加藤」の逸話もあります。さらに、慶長伏見の地震の直前には、四国と九州・豊後で連続して地震があったようです。たった一週間の間に、兵庫県南部地震級の地震が 3 つも起きたというのは驚きです。

そして、江戸時代に入った直後の 1605 年に、南海トラフでの巨大地震、慶長地震が発生しました。この地震では、津波による被害が顕著だったようです。

このように、わずか 20 年の間に大地震が立て続けに発生しました。家康が、地盤が軟弱で水害危険度の高い清須から名古屋へと町ぐるみの移転を決断した背景には、多くの地震災害を目撃・経験したことが関係していたかもしれません。名古屋の城下は、熱田台地と呼ばれる地盤の良い洪積台地に位置し、台地の北西角に城を作りました。台地の北と西は葦原の広がる軟弱な地盤であり、南と東を武家屋敷と寺社を配し守りを固めました。城下を発展をさせつつ、大阪への睨みをきかせるには最高の立地です。

江戸時代に入って社会が安定した後に作られた名古屋は、天下統一直前の 1583 年に築城した大阪や、1590 年に江戸に家康が移封されて整えられた東京とは異なり、安全な台地上に作られた碁盤目状の近代都市です。これがその後の名古屋の隆盛につながったのだと思います。

開府 500 年を迎えるまでの 100 年間に、東海・東南海地震が確実に発生し、その前後には天正地震のような内陸直下地震が起きるかもしれません。開府 500 年を盛大に催すために、家康の思いを忘れずに、地震に強いまちづくりを続けていきましょう。